

令和元年度 第1回 吹田市自殺対策推進懇談会
議事要旨

開催日時	令和元年8月29日(木) 午後2時00分開会～午後3時50分開会
開催場所	吹田市立保健センター 研修室
委員長	小久保委員
出席者	小久保委員、坂元委員、濱野委員、広田委員、前田委員、中川委員、 門田委員、田口委員 (以上8名)
欠席者	なし
議題	(1) 令和元年度 自殺対策計画の推進について (2) その他
資料	○資料1 平成30年度(2018年度)～吹田市自殺対策推進体制 ○資料2 令和元年度(2019年度)自殺対策推進体制スケジュール ○資料3 吹田市自殺対策計画の推進方法 ○資料4 平成30年 吹田市の自殺統計 ○資料5 令和元年度の主な自殺対策事業の進捗について ○資料6 生活困窮者への支援の現状について ○参考資料1 吹田市自殺対策推進懇談会の傍聴に関する事務取扱要領 ○参考資料2 吹田市自殺対策推進懇談会設置要領及び委員名簿

議 事 の 経 過 （ 発 言 の 要 旨 ）

1 開会

事務局

- 開会あいさつ
- 懇談会傍聴について（傍聴希望者0名）
- 資料確認

2 案件

(1) 令和元年度 自殺対策計画の推進について

ア 自殺対策推進体制及び令和元年度自殺対策推進体制スケジュール

事務局

- 資料1及び資料2に基づき説明

イ 吹田市自殺対策計画の推進方法

事務局

- 資料3に基づき説明

委 員

- 令和元年度の具体的な計画は。

事務局

基本施策1の「地域におけるネットワークの強化」そして基本施策2の「自殺対策を支える人材の育成」に関する取組を中心に進める予定。具体的には啓発や研修、事例検討等を進めていく中で頂いた意見をまとめ、今後の推進や評価に活かしていく。

委 員

○基本施策1の「地域におけるネットワークの強化」について、地域というのは吹田市の地域を細分化したものか、吹田市を一つとしたものか。

事務局

細分化しているわけではなく、また大きく括っている訳でもない。大きく言えば吹田市という一つの地域とも言えるが、その中でも小さな地域とする場合もあれば、大きな地域とする場合もある。

どのような地域の捉え方であっても、関係機関が多様な形の地域を基盤としたネットワークを強化し、多角的な視点で支援したいと考えている。

ウ 平成30年 吹田市の自殺統計

事務局	○資料4に基づき説明
委員	○資料4の人数は吹田市民の自殺者数か。吹田市内で発見された他市民の自殺者数か。
事務局	吹田市民の自殺者数である。吹田市民が他市で自殺した場合も吹田市の人数として計上する、住居地に基づく統計となっている。
委員	○平成29年と比較して平成30年は市内自殺者数が約1.5倍になっているが、何か分析しているか。
事務局	細かい分析はできていないが、対策の手を緩めずに推進していかなければならないと認識を改めて持ったところである。 保健所で何か思い当たるような要因は把握されているか。
委員	大阪府内の自殺者数も増加している。平成30年度は景気等の社会的事情が影響したことも要因ではないか。
委員	○個別のケースについて原因等の追及は出来ないのか。 出来ないとすれば、自治体はその市で起きている自殺のより詳細な情報が把握できるようにするべきという問題もある。
事務局	統計のプロファイルから特徴を捉えることは可能だが、個別の事例は把握できない。
委員	○年齢別自殺者数について平成29年と比較して、平成30年は20歳未満が0人に減少しているが、20歳代及び40歳代から60歳代の働き盛りが増加している。 ○原因動機別自殺者数について、女性では健康問題が63.9%から73.6%と増加しているが、健康問題で自殺に追い込まれる要因は何か。例えば経済問題で健康を害した結果なのか、鬱等の心の問題なのか。 ○資料を見ても金銭問題等の経済問題に触れていない。経済問題での自殺者数は他市と比較して低いと思うが、フォローしなければならない面もあるのではないか。
事務局	健康問題については身体的な事や鬱等の精神的な疾患も含まれると考えられる。心身ともに幅広い原因が含まれると思われるため、支援についても幅広いフォローが必要と考えている。
エ 令和元年度の主な自殺対策事業の進捗について	

事務局	○資料5に基づき説明
委員	○「自死遺族向けリーフレット」というのは、遺族の方々に届くようなアプローチや仕組みはあるのか。
事務局	本庁では市民総務室という市民課窓口に近いところや、千里出張所や千里丘出張所、山田出張所の3か所の死亡届を出す所に設置している。
委員	警察等の自死遺族の方に具体的に接触する機関と連携をとり、直接、その方々の手に届けるような仕組みはないのか。
委員	保健所は警察と連携し、主に自殺未遂者の方に対してアプローチする事業を平成24年から継続しており、保健所が相談先である旨を記載したパンフレットの配布をしている。 相談が必要な自死遺族の方は自発的に検索し、相談しているように思う。目につくところにパンフレット等を設置し、支援へと地道に繋がってきている事例もある。
委員	○「市民向けストレスチェック」とはどういうものか。
事務局	唾液アミラーゼの数値を基に測定する、ストレスチェッカーという機械を用いて、自身の健康状態を自覚する体験型のストレスチェックを実施する。
委員	食後は数値が上昇する等、その時の状況に左右されることもあるため、ストレスに興味を持ってもらうという意味合いが強い。
委員	○「人材の育成」の機会については、どれくらいの規模で行う予定か。
事務局	市職員向け1回、教職員向け1回の合計2回を予定している。 教職員向けについては教育相談担当や生活指導の教職員を対象に、80人から90人を想定していると教育委員会から聞いている。 市職員向けについてはまだ具体的な計画は立てていないが、7、80人くらいの参加を想定している。市の窓口等で市民の悩みに気づけるよう、職員として多角的な視点を持つことが重要であることから、そのような指導をいただける講師を考えている。
委員	連携が重要といわれる中で、相談者を適切な機関へ繋ぐことがゲートキーパーの始まりでないか。新規採用職員対象の研修にゲートキーパー研修を組み込むことが継続的にできれば良いと思う。

事務局	<p>新規採用職員研修や新規に主査や課長代理となった職員対象の研修等、対象者や具体的な事項については、人事室と相談しながら共催で実施する予定としている。</p>
委員	<p>○フリースクールの代表等から9月1日に子供の自殺が多いと聞いたり、そのような報道を目にしたりする。市の啓発や懇談会での検証等が必要ではないか。</p>
<p>オ 令和元年度第1回自殺対策推進庁内会議実務担当者会議報告「生活困窮者の支援の現状」について</p>	
事務局	<p>○資料6について説明</p>
委員	<p>○生活困窮に関する事業については、一定の成果が挙げられていると感じる。</p>
委員	<p>○弁護士会は自治体の生活困窮部門で法律相談事業をしており、法的課題を抱えている生活困窮者は多いと感じる。吹田市はとまだ連携が出来ていないため、検討をしていただきたい。</p>
事務局	<p>○市役所1階に生活困窮者自立支援の相談窓口を設けており、委託先の社会福祉協議会の職員と市職員が相談を受けている。</p>
委員	<p>生活困窮に陥りそうな市民を早期発見するため、地域の諸団体と連携がある社会福祉協議会が今年度から受託している。コミュニティソーシャルワーカーを13名配置している。</p> <p>7月の新規相談件数は過去最多を更新しており、以前よりも相談しやすくなったのではないかと感じる。社会福祉協議会、吹田市の双方がそれぞれの強みを活かし、事業に取り組んでいる。</p> <p>法律相談を希望する方は、吹田市の無料法律相談へ繋いでいる。</p>
委員	<p>自治体の無料法律相談では時間が限られるなど、十分な解決につながらないこともあるため、相談員と弁護士が連携して解決していくことが必要である。</p>
委員	<p>○生活困窮者の支援については、多職種や他機関の連携が非常に出来ていると実感している。</p>
委員	<p>○生活困窮の担当者から生活保護の窓口へ繋いだ後も、治療や法的課題等</p>

	<p>のアフターフォローが必要な場合には、生活困窮の担当者は相談者に寄り添うよう、厚生労働省から通達が出されている。また、そのような連携がとれる仕組み作りが必要である。</p>
委員	<p>○民生児童委員がボランティアであるにもかかわらず、過大な相談等を受けている現状がある。生活保護のケースワーカーが多忙であることも要因となっている。</p>
委員	<p>○民生児童委員が抱えきれない相談を受けた際に、コミュニティソーシャルワーカーに繋ぐケースは多くあり、生活に課題を抱えた市民を発見するルートの一つである。</p> <p>○民生児童委員が疲弊しない仕組み作りをしてほしい。</p>
委員	<p>○福祉職にはスーパーバイズ（SV）という考え方があるが、指導する職員はある程度の技量を持っている必要があり、事務職採用の職員が経験則だけで助言、監督等が出来るものではないと思う。福祉現場に配属された職員は専門的な研修を受けることを提案する。</p>
事務局	<p>専門職という位置付けではなく、福祉職を中心に採用後 10 年間は福祉現場を中心に配属することを希望し、社会福祉修士資格を有している事を条件として年数名を採用している。</p>
委員	<p>○住民からの問題を掘り起こすためには、地域での見守りや情報等を大切にして、連合自治会単位で支援ができる体制が整うと良いと考える。</p>
委員	<p>○動機が病気、健康問題の自殺者が多いことに関して、そのような悩みを抱える方については薬局が察知しやすいのではないかと思う。是非ともゲートキーパーの養成をしたい。</p>
(2) その他	
事務局	<p>○本日の意見は庁内の関係部局で情報共有に努め、今後の活動に生かしてしていく。</p> <p>○来年度の自殺対策事業については、来年度から吹田市が中核市に移行することに伴い、所管が保健所の地域保健課に移る予定になっている。</p>
(閉会)	